

岐阜県嚥下障害研究会

モグモグ通信

No. 20 (2012. 5 発行)

11月25日の
学術講演会
へ、たくさん
のご参加を
お待ちしております
ま〜す!



発行所:岐阜県嚥下障害研究会
事務局:木沢記念病院 ST室

第15回大会テーマ 「摂食・嚥下リハビリテーション コーディネーターを目指して」

岐阜県嚥下障害研究会
会長 豊島義哉
第15回学術講演会
準備委員長 池戸友梨
事務局 一同
(木沢記念病院総合リハビリ部)



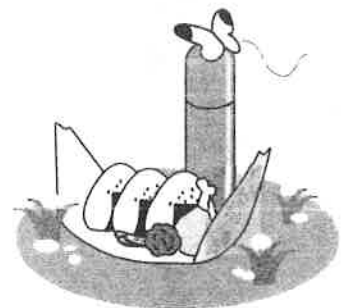
入院が長期化している重症の嚥下障害で肺炎を起こす危険性が高い患者へは、栄養補給方法として経鼻経胃管栄養や胃瘻栄養などが行われています。そして、以前であれば、胃瘻栄養になると、食べ物を使った積極的な摂食・嚥下リハビリは行わない傾向にありました。しかし、近年は、必要栄養量が経口から摂れなくても、楽しみとしての経口摂取をとという考えに変わってきています。そのためには、摂食・嚥下のメカニズムを熟知し、適切にアセスメントを行い、関係者みんなで方向性を検討し、摂食・嚥下障害への支援を進めていく必要があります。そして、それぞれの現場で摂食・嚥下リハビリのコーディネーターが育っていくことが大切だと考えます。

15年前の1998年、岐阜県内では摂食・嚥下リハビリを実施している病院や施設は少なく、対応方法も試行錯誤の状態で経管栄養にて退院し在宅となるケースが多い状況でした。そこで、医療、保健、教育、福祉などの関係職種が摂食・嚥下障害の理論と実際について研修及び意見交換をし、摂食・嚥下障害児者のQOLの向上の一助にと「岐阜県嚥下障害研究会」が発足しました。年に1回の学術講演会に加え、小児と成人の2つの領域に

分かれ、摂食・嚥下障害を医学的に評価しアプローチするに留まらず、ポジショニング、脱感作などの理学療法的・作業療法的なアプローチ、口腔衛生を含む多角的な視点で捉え、系統的学習をそれぞれの領域で年に4回実施しています。現在、小児・成人領域それぞれにおいて摂食・嚥下リハビリの中核的機能を果たす病院、施設も増えてきています。そして、県外の方からも研修会への参加を頂けるようになってきました。現在会員は370名を超え、職種は多い順に看護師、言語聴覚士、歯科衛生士、療育センター指導員、教諭(特別支援学校含む)、理学療法士、介護施設職員、栄養士、作業療法士、歯科医師、保育士、医師など、多職種にわたります。

第15回学術講演会中濃大会では、テーマを「摂食・嚥下リハビリテーションコーディネーターを目指して」とし、摂食・嚥下障害児者への良き支援者になれることを願い、①摂食・嚥下障害児者のリハビリテーション～病院、施設、学校、在宅そして介護予防～、②摂食・嚥下障害児への取り組み～希望が丘学園の現場から～、③摂食・嚥下障害児者のリハビリテーション～評価(V.E, V.F)から対応～、④摂食・嚥下障害へのバルーン法の実際、⑤在宅における摂食・嚥下障害児者のリハビリテーション～訪問歯科衛生士の立場から～など、5講演を計画いたしました。

日ごろの臨床、業務の確認・見直し及び情報交換の場として、第15回大会に多くの方々にご参加頂きたく、運営スタッフ一同お待ちしております。



成人勉強会 レポート

進化するゲル化剤

社会福祉法人 美徳会
特別養護老人ホーム ビアンカ
管理栄養士 伊藤 恵

以前他の研修でフェニックスグループの特別養護老人ホーム メゾンペイネ、介護予防サービス Com.Do や Com.Do2、を見学させていただいた際に理事長 長縄氏の話をお聞かせいただき医療・介護・福祉を融合し地域に貢献されている姿に感動を受けました。そのグループのひとつであるサンバレーかかみ野のソフト食の研修会があると知り参加することにしました。

実習ではおでんの具材（大根、里芋、がんもどき、卵、人参、絹さや）ごとにグループに分かれ、準備してあった分量のだし汁とゲル化剤を入れてミキサーにかけペースト状にしたものを鍋に移し、火にかけ型に流し冷やし固めるという作業をしました。あとはそれぞれのグループで作った具材を集めて盛り付けをしていただき、試食となりました。その準備をしている間に、サンバレーかかみ野で取り組まれているソフト食の調理についての講義とデモンストレーションをして下さいました。

アンケートより

非常に満足している	45.5%
満足している	48.4%
普通	6.1%
やや不満足	0%
不満足	0%

非常にわかりやすい	45.5%
わかりやすい	36.4%
普通	18.1%
ややわかりにくい	0%
わかりにくい	0%

平成24年1月29日（日）

「いつまでもおいしく食べる喜びを
～高齢者ソフト食の調理～」

講師

曳田のぞみ氏

（介護老人保健施設サンバレーかかみ野 管理栄養士）

原川美穂氏 （エームサービス（株）管理栄養士）

場所：介護老人保健施設サンバレーかかみ野

食材によってゲル化剤の種類や濃度を変えたり、肉類はバーナーで焦げ目をつけたり、ゲル化剤を使用しないで芋類やはんぺん、卵白、生クリーム等で軟らかく仕上げる工夫をしておられました。当施設もソフト食を数年前から導入していますが、厨房のマンパワーや時間的问题がありなかなか次の段階へステップアップすることができない現状です。今回紹介されたミキサーゲル（株式会社 宮源）は冷たい食材・温かい食材の両方に使用でき、しかも加熱が必要ないとのことで、忙しい朝食にはぴったりだと思いました。曳田先生の食事に対する思いが委託会社にもきちんと伝わり入居者様にとって安全でおいしい食事が提供できているのだと思います。今回の研修を参考に当施設のソフト食をもう一度見直してみたいと思います。

曳田先生、原川先生ありがとうございました。

年会費納入について

納入金額：平成24年度分会費 1,000円

納入期限：8月末日まで（前年未納者は2,000円）

振込先：郵便振替 加入者 岐阜県嚙下障害研究会

口座番号 00890-3-114142

*同封の郵便振込用紙をご利用ください。

*通信欄に「〇〇年度分会費」とご記入願います。

*“振替用紙の控え”をもって 会員証とします。

*2年間会費を滞納すると、自動退会となります。

（注）未入会者は 入会申込み手続きが 別途必要！

問い合わせ：土岐市立総合病院 リハビリ部 加藤まで

当研究会が、日本摂食・嚥下リハビリテーション 学会誌に紹介されました

日摂食嚥下リハ会誌 15 (2) : 230-231, 2011 231

岐阜県嚥下障害研究会

平成 10 年、当時岐阜県内では摂食・嚥下リハビリを実施している病院や施設は少なく、対応方法も試行錯誤の状態を経て栄養にて退院し在宅となるケースが多い状況でした。そこで、医療、保健、教育、福祉などの関係職種が摂食・嚥下障害の理論と実際について研修及び意見交換をし、摂食・嚥下障害児者の QOL の向上の一助にと、「岐阜県嚥下障害研究会」を発足させました。年に 1 回の学術講演会に加え、小児と成人の 2 つの領域に分かれ、摂食・嚥下障害を医学的に評価しアプローチするに留まらず、ポジショニング、脱感作などの理学療法的・作業療法的なアプローチ、口腔衛生を含む多角的な視点で捉え、系統的学習をそれぞれ年に 4 回実施し、徐々に力を付けてきました。現在小児・成人領域それぞれにおいて摂食・嚥下リハビリの中核的機能を果たす病院、施設も増え、県外の方からも講習会への参加をいただけるようになってきました。

現在会員は 400 名を超え、職種は多い順に看護師、言語聴覚士、歯科衛生士、療育センター指導員、教諭（特別支援学校含む）、理学療法士、介護施設職員、栄養士、

作業療法士、歯科医師、保育士、医師など、多職種にわたります。

今年の第 14 回学術講演会（11 月 13 日セラミックパーク MINO）は、午前は日本大学歯学部植田耕一郎先生に「病態時期別にみた摂食・嚥下リハビリテーションと口腔ケア」と題してご講演をいただき、午後は 6 つの分科会（小児の食につながる生活支援、地域連携、嚥下機能と食形態、摂食・嚥下機能評価、食事現場の悩み、口腔機能向上）に分かれての討論を計画しています。

今後も、研鑽を重ね、会員一人ひとりが有用なコーディネーターになれるよう精進して参りたいと考えています。

岐阜県嚥下障害研究会 代表 豊島 義哉
（社会医療法人厚生会 木沢記念病院 総合リハビリテーション部 課長）

事務局：〒505-0034 岐阜県美濃加茂市古井町下古井 590

社会医療法人厚生会 木沢記念病院 総合リハビリテーション部 池場 亜美

TEL：0574-25-2181(代表)

FAX：0574-26-2181(代表)

E-mail：gengo@kizawa-memorial-hospital.jp

●第 14 回 岐阜県嚥下障害研究会 学術講演会

【責任者】社会医療法人厚生会 木沢記念病院・総合リハビリテーション部 豊島義哉

【講演名】病態時期別にみた摂食・嚥下リハビリテーションと口腔ケア～急性期、回復期、維持期、そして看取りを考える～【講師】日本大学歯学部摂食機能療法学講座 教授 植田耕一郎（嚥下リハ学会認定士）

【日時】2011 年 11 月 13 日（日）10 時 00 分から 12 時 00 分【会場】セラミックパーク MINO 1F 国際会議場

【参加者】本学会会員、本研究会会員、医師、歯科医師、看護師、言語聴覚士、歯科衛生士、栄養士、介護士、学生等、約 250 名【内容】医療制度上、病態区分がなされており、急性期以降のステージが異なれば自ずと対応も

異なってくる。健康長寿や生きる質が問われるようになり、医科・歯科・介護問わず「口腔ケア」は共通言語となり、「摂食機能の回復」は絶えず問われ続けるところだと話され、以下の 3 点について詳述された。1. 要介護高齢者の口腔機能の特徴。2. 急性期から終末期に至るまでの口腔ケアの留意点。3. 摂食・嚥下リハビリテーションの理念と手技。【成果】装置診断は確定診断ではあるが、装置診断により、対応のすべてが決定されるわけではない。皆さんが常日頃行っている視診、触診、聴診などの臨床診断も大切である。そして、維持期、ターミナルでは患者さんは結果ではなく関わりを求めている、変わらないことへの価値観を持つことも大切と話され、参加者も頷けるものであり、明日への大きな元気を頂くことのできた講演であった。（公認Ⅱ 5 単位参加証発行 14 件 講師単位 20 単位）

平成24年度 研修会 年間スケジュール

成人部門

都合により、日時・場所・内容・講師などを変更する場合があります！

●摂食・嚥下リハ 初級課程 講習会

日時：平成24年8月26日（日）10時～15時半

会場：木沢記念病院 中部療護センター 3階 討議室
（美濃加茂市古井町）

講師：加藤孝憲氏、川口千治氏、豊島義哉氏

参加費：会員 1,000円 非会員 3,000円

■第1回勉強会

日時：平成24年9月22日（土）秋分の日

9時～16時半

会場：土岐市立総合病院 核医学棟 3階 大会講室

内容：「摂食・嚥下障害に対する理学療法的アプローチ
～呼吸・筋緊張の改善を目指して～」

講師：富田 昌夫氏

藤田保健衛生大学医療科学部 教授 理学療法士

参加費：会員 3,000円 非会員 4,000円

■第2回勉強会

日時：平成25年3月 予定

会場：未定

内容：「症例検討会」とミニ講演会

参加費：会員 500円 非会員 1,000円

小児部門

■第1回勉強会（通算第37回）終了

日時：平成24年6月9日（土）

内容：「小児の口腔ケアの実際

～口腔機能訓練につながる口腔ケア～」

講師：栗木 みゆき氏

（多治見口腔ケアグループはねっと 歯科衛生士）

■第2回勉強会（通算第38回）

日時：平成24年8月11日（土）9時半～4時半

内容：子どもを笑顔にする姿勢保持と活動を促すための工夫～教育現場での取り組みを通して～（仮題）

講師：篠原 勇氏（京都府立与謝の海支援学校 教諭）

田本朋巳氏（希望が丘学園 作業療法士）

定員：80名

会場：平成医療専門学院 F教室

■第3回勉強会（通算39回）

日時：平成24年1月

テーマ：症例検討会 ミニ講義

助言者・講師：野沢 由紀子氏

（信濃医療福祉センター 言語聴覚士）

会場：未定

定員：50名

■第4回勉強会（通算40回）

日時：平成25年3月頃

テーマ：「重度障がい児のコミュニケーション支援」
（仮）

講師：未定

第15回 学術講演会・総会 第1報

日時：平成24年11月25日（日）10時～16時

会場：タウンホールとみか（富加町）

講演1「摂食・嚥下障害児者のリハビリテーション

～病院、施設、学校、在宅そして介護予防～」

豊島義哉氏（岐阜県嚥下障害研究会会長、言語聴覚士）

講演2「摂食・嚥下障害児への取り組み

～希望が丘学園の現場から～（仮題）

柴田一浩氏（岐阜県立希望が丘学園 言語聴覚士）

講演3「摂食・嚥下障害児者のリハビリテーション

～評価（VE, VF）から対応～」

玄 景華氏（朝日大学歯学部 歯科医師）

講演4「摂食・嚥下障害へのバルーン法の実際」

加藤孝憲氏（土岐市立総合病院 言語聴覚士）

講演5「在宅における摂食・嚥下障害児者のリハビリ

テーション ～訪問歯科衛生士の立場から～」

栗木みゆき氏（岐阜県歯科衛生士会副会長、

多治見口腔ケアグループはねっと 歯科衛生士）

書籍、嚥下障害補助食品等の展示・配布

参加費：会員 2,000円 非会員 3,000円

学生 1,000円

—編集後記—

モグモグ通信は会員約400名および県内の医療機関、福祉施設、療育施設、特別支援学校など約400ヶ所 合計800部を発送しています。

巻頭言や各研修会の体験レポートなどの執筆を快くお引き受けくださり、感謝申し上げます。

今後共、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。